



Logistics  
Real estate  
Cooperative

物流不動産協同組合

# 次世代物流ビジネスの 中でロジ検の位置づけ

2025-11-1

細木

## 位置づけ

- あらゆる業種・業界・業態の人が次世代ビジネスを目指している
- その中で物流がロジスティクスがそしてサプライチェーンがその事業のベースになっている
- しかし昔の物流なら諸先輩方が教えてくれたところが次世代物流ビジネスは誰も教えてくれない、教えられなくなった
- 特に24年以降は法令もコンセプトも変わり、「ただ運べば良い」物流から「ESG物流」に変わらなければならなくなった
- ただ教える人がいない、ロジ検は「ESG物流」の理解力を評価できる公式認定資格として位置付けられる

## 次世代物流ビジネスを教える

- 物流不動産協同組合では、その次世代物流ビジネスの一環として「ロジカレッジZ」を構築した
- 「ロジカレッジZ」の教育カリキュラムに関しては[https://net-e.org/wp-content/uploads/2025/10/logicollegez\\_.pdf](https://net-e.org/wp-content/uploads/2025/10/logicollegez_.pdf) 参照
- このカリキュラムの中のNo7「物流業界の全容を理解する」がロジ検と似たような内容と思われる
- 両者（「ロジカレッジZ」とロジ検）の目的は、次世代の人材を育てる事
- 誰も教えられなくなった次世代物流ビジネスを、ロジカレッジZとロジ検が学びのプラットフォームとして君臨する

大量生産・大量消費・大量廃棄時代の経験しかない人には教えられない  
サステイナブル物流(これが次世代物流のコンセプト)

## ESG物流の コンセプト

### ロジスティクスの使命

ロジスティクスは止めても、滞らせてもならぬ  
しかも**最適値** (コストと在庫) **最小値** (CO2排出量、最終廃棄量)

ホワイト物流 (コンプライアンス遵守)

グリーン物流 (脱炭素と最終廃棄量)

レジリエンス (復元力) 物流  
(災害やリスクに強い)



ロジスティクスは物販事業を行う事業体だけではなく、サービス事業を行う事業体にも  
事業継続の生命線になる



24年問題以降物流の責任事業者が荷主企業に変わった  
統括物流責任者（CLO）の設置が義務化された  
荷主企業はメーカー、流通業、EC事業者含む  
サービス業界に至ってもBCPが義務付けられています

**時代も要請も変わったのに、まだ旧態依然とした事業をしますか？**

物流が滞ったら事業の継続が困難になる  
「物流を学びなませんか」と研究会員に訴求する、誘致する  
そのために月に1回物流不動産協同組合を通して、情報発信する  
ブログや動画を作成し、研究会員に見えるようにする

- 検定試験が年1回【2月】という事もあり、1月勉強、2月試験という年に1か月間の活動でしかなかった
- 対象はイーソーコグループの職員が多かった
- 合格してもフォローはしていなかった

アメリカでは生活必需品事業企業の約3割にCLO（チーフ・ロジスティクス・オフィサー）が存在しており、ロジスティクス管理が重要視されています  
アップルのCEOもCLO経験者です（経産省CX研究会資料より抜粋）



ティムクック AppleCEO

## ロジ検での3つのお約束（年100人の合格者輩出）

年間を通して、ロジ検をベースにした情報発信をする（月に1回のブログや動画）

ロジ検を学んだ人がCLOになって事業の成功体験を共有する

ロジ検合格次にロジ検のコンセプトを自社、取引先に拡散  
サプライチェーンで事業を継続成長させる